

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらり鎌ヶ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	市民会館内の施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター・市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ヶ谷と綿密な意見交換の場をもつために、月1回情報共有の場を作り、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応を検討。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ヶ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。
②①に基づく取組み結果	月1回、情報共有会議を行い、連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図(対象をどうするのか)	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	各施設の来場者数が増加している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	情報共有会議を開催することにより、接客がスムーズとなり、来館者増加につながった。(平成26年度きらりホール来場者数は74,932人であるが、オープニングセレモニー参加者数18,444人を含めた数であるため、通常運営期間人数は56,488人である。それと比較すると平成27年度は1,950人増加している。)					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i きらりホール		74,932	58,438	人	業務取得
	ii 中央公民館		66,674	97,939	人	業務取得
	iii 多文化共生推進センター		3,402	3,435	人	業務取得
iv 男女共同参画推進センター・市民活動推進センター		3,306	3,747	人	業務取得	
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	109,324	114,643	金額(千円)	内容	115,221	
国支出金(千円)			80,987	市民会館賃借料	80,987	
県支出金(千円)			10,237	光熱水費	10,800	
市債その他(千円)			12,733	清掃委託	12,733	
一般財源(千円)	109,324	114,643				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	地震や火災等が起きた際の訓練はショッピングプラザ鎌ヶ谷を中心に定期的に行っているが、他店舗を舞台としての非難訓練であるため、市民会館内独自の避難訓練が必要。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営をするにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。効率面では、複合施設という観点から利用者にとって利便性がある反面、市民会館を中心に情報共有を常に行う必要性もあることから、普通とした。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績		当初		H25からの繰越
		H25⇒26繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当		
平成27年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	貸館業務については、今までのデータの整理を行う。 自主事業については、観覧者数を増やすため、きらりホール運営委員のアドバイスをもとに、来年度以降の計画や告知方法などを検討する。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	利用案内書の見直しを行うなど、利用者にとってわかりやすいホール運営を検討。自主事業は、入場者数が少なかった過去公演の見直しを行い、PR方法等再度検討する。
②①に基づく取組み結果	貸館業務は、打ち合わせ内容をデータ化し、問い合わせに迅速に対応が出来るようになった。自主事業は、きらりホール運営委員会のアドバイスをもとに、28年度事業計画を策定。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、市域	意図(対象をどうするのか)	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	平成26年度きらりホール来場者数は74,932人であるが、オープニングセレモニー参加者数18,444人を含めた数であるため、通常運営期間人数は56,488人である。それと比較すると平成27年度は1,950人増加している。						
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠	
	i	ホール来場者数		74,932	58,438	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	58,469	52,531	金額(千円)	内容	49,079		
国支出金(千円)			28,366	舞台保守管理委託	28,366		
県支出金(千円)			17,761	報償費	6,576		
市債その他(千円)			323	手数料	5,000		
一般財源(千円)	58,469	52,531	1,966	舞台消耗品	3,360		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ホール利用案内書がわかりづらいため、見直しが必要。また、自主事業においては、観覧者数が少ない公演が何点あったため、PR方法の検討が課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	5改善
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「人づくり、地域づくり、まちづくり」の観点から考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性、効率性は高いといえる、また、課題に対しての改善が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)				